



A 小口薬師堂から東に伸びる通りは工女でにぎわう繁華街だった。写真はだるま祭り。



B かつての郵便局。その後建物が利用された旧市立図書館といえば、市民に懐かしい。



C 岡谷には銀行の支店が軒を並べていた。安田銀行(左[C]) 八十二銀行(右[D])、どちらも立派な構え。



D



E 吉田館の繭倉庫は高層の5階建て。製糸の発展を物語る風景や匂いは、人々の記憶のなかに残る。



F 諏訪倉庫の塚間倉庫群(明治42年創立、昭和56年まで経営)。



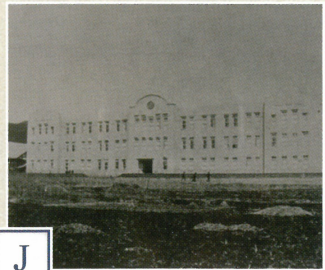
G 市制施行に沸く駅前広場。昭和11年。



H 中央通りのまんなか。イルフプラザの北口に立つと、当時の風景と比べることができる。



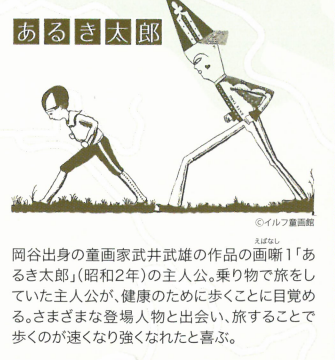
I 平野製糸共同病院(現岡谷市民病院) 明治42年に製糸業者が共同出資して従業員やその家族の診療を主とする病院を作った。こうした例は全国的にも早かった。



J 諏訪蚕糸学校(現岡谷工業高等学校) 岡谷の中等教育は明治45年の平野農蚕学校から始まった。後に蚕糸業の発展と衰退を背景に学校名と履修学科を変え、現在も岡谷の産業・教育を支えている。

あるき太郎と探るシルク岡谷

岡谷市は、日本のほぼ中央、天竜川の源流諏訪湖の出口にあり、古くから文物交流の接点として栄えました。そして明治以降、豊富な水や乾燥した気候などの恵まれた自然環境と、人々の努力と工夫によって製糸業が飛躍的に発展したまちです。



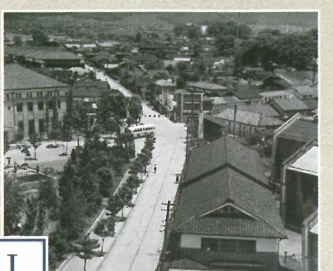
製糸工場を併設するわが国唯一の博物館。
岡谷蚕糸博物館
ヨルコファクトリー
■開館時間 9:00~17:00
■休館日 水曜日、祝日の翌日 12月29日~1月3日
■お問い合わせ TEL.0266-23-3489

このパンフレットに使われている絵は、あるき太郎 武井武雄画題第1巻(昭和2年)。岡谷市出身の童画家 武井武雄の作品。
イルフ童画館
■開館時間 10:00~19:00
■休館日 水曜日、12月29日~1月3日、臨時休館あり
■お問い合わせ TEL.0266-24-3319

- A 絲まち西回廊コース 4.7km**
 - 10 岡谷蚕糸博物館 1.2km 徒歩14分
 - 6 旧山上宮坂製糸所 1.40km 徒歩3分
 - 7 株式会社金上繭倉庫 2.70m 徒歩5分
 - 8 蚕室供養塔 4.50m 徒歩7分
 - 3 旧林家住宅 1.2km 徒歩15分
 - 5 丸山タンク 1.0km 徒歩12分
 - 11 旧岡谷市役所庁舎 4.50m 徒歩6分
 - 10 岡谷蚕糸博物館 4.50m 徒歩6分
- B 絲まち東回廊コース 3.7km**
 - 10 岡谷蚕糸博物館 4.50m 徒歩6分
 - 11 旧岡谷市役所庁舎 1.4km 徒歩16分
 - 15 丸中宮坂製糸所繭倉庫 1.0km 徒歩12分
 - 14 旧山上宮坂製糸所 5.50m 徒歩9分
 - 18 新增澤工業株式会社 2.80m 徒歩5分
 - 10 岡谷蚕糸博物館 2.80m 徒歩5分



K 天竜川から岡谷駅南側にかけての工場群。



L 中央通り・今井新道



M 岡谷座 御倉町に明治43年創立。岡谷地方の劇場としては最も早い。宝劇場、三沢座などとともに製糸従業員娯楽施設として人気を博した。



N 山共岡谷製糸の選繭場 良質な原料繭を確保することが、製糸業にとっては重要であった。製糸家たちは明治期から県外へ原料繭を求めて進出していった。写真は工女一人一人の手によって繭を選り分けている様子。

シルク岡谷の礎~明治黎明期に活躍した製糸家

明治から大正、昭和のはじめにかけて、岡谷には製糸業が飛躍的に発展し、「シルク岡谷」の名が世界にとどろいた。この発展の礎は、明治黎明期に活躍した人々によって築かれた。

先進的で実用的な諏訪式繰糸機を開発

武居 代次郎
(1838~1896)

努力と知恵で創意工夫を生み出す。武居代次郎は、明治8年に中山社を9人共同で創業。イタリア式とフランス式繰糸機を折衷した廉価で実用的な「諏訪式繰糸機」を開発。これは、瞬く間に全国へと普及し各地で生糸の工場生産体制が整えられた。

日本一の製糸工場「片倉組」を創設

初代 **片倉 兼太郎**
(1849~1920)

世界一の製糸王国へ導く。初代片倉兼太郎は、明治11年に垣外製糸場を創業、翌年には製糸結社、開明社を設立。明治28年に片倉組を創設し、卓越した先見力と強いリーダーシップで日本を世界一の製糸王国へ導いた。勤勉倹約、堅実経営、技術重視という経営哲学は、諏訪地方の産業にも脈々と受け継がれている。

世界市場からの信頼を獲得

尾澤 金左衛門
(1833~1894)

製糸の品質管理技術が全国に普及。尾澤金左衛門は、明治12年に製糸結社、開明社を片倉兼太郎や林倉太郎とともに組織。明治黎明期、日本の製糸業は、需要増大により粗製濫造などの問題を生じていたが、共同揚返しによる徹底した品質管理を行い、これが全国に普及し、日本の生糸は海外市場からの信用を得るに至った。明治27年に尾澤組を創設。

先見性に富む多角的な事業家

林 国蔵
(1846~1916)

豊かな発想で製糸業発展に尽力。林国蔵は、父倉太郎が創業した一山カ(イチヤマカ)林製糸場を明治19年に引き継ぎ、開明社の経営にも参画した。国蔵はまれにみる事業家で、先駆けて中国産繭の輸入に着手、製糸工場の燃料不足が問題になるや、諏訪新炭炭株式会社を創設、石炭の採掘を行うなど製糸業発展に大きく貢献した。国蔵の旧宅である「旧林家住宅」は国重要文化財となっている。